

日 時 : 2013 年 6 月 13 日(木) 13:00 ~ 17:00

場 所 : 塗料報知新聞社 会議室

出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、内山貴識(東和酵素株)、高橋大(株三王)、河本謙一(株)小泉塗装工業所)、島田哲也(旭サナック株)、杉山博英(アネスト岩田株)、木下稔夫(東京都立産業技術研究センター)、

幹事: 平野克己(日本塗装機械工業会)、福田良介(日本パウダーコーティング協同組合)

アドバイザー:

オブザーバー: 田村吉宣(いすゞ自動車株株)

ゲスト: 岡田久佳(岡久株)、田辺直(尙タナベ塗工所・愛車館タナベ尙)

魚谷英未(日本ワコン株)

矢野明子(東京都環境局環境改善部化学物質対策課揮発性有機化合物対策担当係長)

井ヶ田幸生(埼玉県環境部大気環境課下川崎市環境局企画・監査担当主査)

小林昴太/左近雅美明治大学(森下正中小企業論ゼミナール、学生)

山岸達矢(東京大学工学部化学システム工学科平尾・杉山研究室)

事務局: 有馬弘純(塗料報知新聞社)

18 名 敬称略

\*\*\*\*\* 議 題 \*\*\*\*\*

2013 年度は、昨年 10 月から揉んできた中長期テーマのうち、「2.根本的な環境対応」を中心に具体的なテーマを推進し、「1.サポインの横展開」「3. 塗装の地位向上」「4.塗装の生き残り策」についてもテーマの具体化を図り、取り組みを進める。

今回、東京都、埼玉県から行政、また明治大・東京大の学生も参加した。

次回、中小企業団体中央会の鈴木氏を招いて、組織としてどう展開していくのが望ましいかについてヒアリングを行う予定。

■木下先生

ものづくり補助金の認定状況について、塗装に関わる申請案件をマークしたリストを回覧した(一次締切 10 件、二次締切 81 件)。本件は、サポインの大型資金補助でなく 1000 万円程度の補助金であり、数千件の申し込みがあった。

この 10 年を振り返ると、VOC 削減は法規制だけではだめで、2020 年、2030 年を目指して減らしていく必要がある。

■内山氏

◆第一塗装工業でのモーター洗浄について映像を通して報告した。

非導電性のナショナルケムサーチ社の溶剤を用いた。

使用電力が下がるか否か、デマンド計で1ヵ月測定中

大気中のCO<sub>2</sub>を用いたペレット状のドライアイス(1 箱 20 kg × 2 箱 = 5,000 円)を 100V で稼動するケルヒヤー社のドライアイスジェッターに投入し、乾燥炉に吹き付けて表面のヤニ類を剥離する。

10 月のセミナーで発表を予定している。

◆小泉塗装工業所の化成被膜処理ラインについて報告した。

リン酸処理への対応策について提案するため実証試験の協力を行う。

◆塗装スラッジのペレット化

■魚谷氏

平成 23 年法規制(窒素・リン含有)

リン酸亜鉛処理を行った後の水洗水について課題が残っている。

化成被膜洗後水洗リサイクル 日本ワコン社のワコンナーの説明(ワコンナーLM2X)

■田辺氏

開発中のバブリングブースについて進捗状況を報告

■矢野氏

夏季の VOC セミナー、VOC対策アドバイザー制度の紹介

補助金により中小企業の環境対策を活性化する。

■田村氏

EISENMANN社のドライスクラバーについて、ドイツの情報も盛り込み報告した。

日本塗装技術協会の大阪セミナー「最新自動車塗装技術」が紹介された。

■井ヶ田氏

2012 年度末に VOC 取扱い事業者に対し、取扱い状況や削減目標のヒアリングを行い、VOC 排出削減のためアドバイザーを派遣した。

■山岸氏

研究室の研究対象である「環境影響配慮型の塗装プロセスの設計支援」について、自動車分野の塗装プロセスからの VOC 排出量と VOC 成分の光化学オキシダント生成への寄与分析など発表した。

■小林氏/左近氏

ひとつの目標に向かって共有することが任意団体にとって必要不可欠であることを再認識し、いかにこうした会を増やしていけるかについて考えさせられた、と最後に発表した。

※今回、環境技術分科会終了後、事務局を務める有馬の社長就任祝いとして、窪井氏の要請に応じ、明治大学生が購入してきた赤色のネクタイを贈呈。

※次回分科会開催予定

第 47 回環境技術分科会 2013 年 8 月 21 日 (水) 13 時 ~ 17 時 塗料報知新聞社 会議室

————— 以 上 —————